

東海大学 外国語教育センター

授業での支援

表1 聴覚障がい学生数の推移

年度	2005	2008	2013	2015
人数	21	12	16	15

① テイカーの配置

- ◇ 外部団体にコーディネート委託（テイカー育成、配置、PC管理など）
- ◇ 希望すれば、テイカー（主にPCテイカー）を各授業でつけることができる
ただし、語学の科目にはテイカーがつかない
- ◇ 1名の学生に対し、基本的には2名のテイカーがつく

② 英語必修科目の振替え

- ◇ 必修の「英語リスニング&スピーキング」科目については、同じ授業コマ数の英語選択科目を受講し、単位を振替える

③ 英語科目での支援実践例

- ◇ 毎時間パワーポイントを使い、授業後に同じ資料を渡す
- ◇ アメリカ手話を英語で書かれたASLのテキストを使って学ぶ
- ◇ タブレットを導入したICT授業

学生アンケート調査から見えるニーズと教育効果

① 情報保障

- ◇ 英語科目は、英語以外の科目に比べ情報保障（サポートの有無と方法）が十分ではない
- ◇ 英語科目での情報保障の希望としては、「プリント配布」が最も多かった
ただし、「何もないよりはまし」という消去法的観点
田頭・木下（2013）参照
- ◇ 英語科目でのテイカーによる情報保障は、テイカー自身の英語能力に影響される可能性がある

② 授業中の学生の行動、および感想と教育的効果

- ◇ iPad、MetaMoji Shareを使った授業に関して
「現代的だ」「わかりやすい」「情報をみんなで共有できる点が良い」
- ◇ 視覚的情報を手元でそれぞれが共有でき、しかも書き入力も可能という点で、学生がより利用しやすい環境を提供
- ◇ 音声を紹介し、文字情報のみでインタラクティブにやり取りをする工夫を学生自ら作り出す
田頭・木下（2014）参照

ユニバーサルデザインをめざした授業

タブレットで、MetaMoji Share^注という書き込みソフトを利用し、情報をタイムラグ無く、同時に視覚的にシェアする

注（株）MetaMojiのフリーソフトで、インターネットにをしたりしながら情報をシェアできるアプリケーション。http://shareanytime.com/jp/

聴覚障がいを持つ学生と 聴者の学生が ともに学ぶ英語の授業での取り組み

ろう文化・聴覚障がい学生への理解

アメリカ手話のワークショップを、外部から講師を招いて、2年に1回程度実施
授業中に、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、授業に関する内容理解だけでなく、お互いの立場を理解し、協力してタスクを成し遂げるための最もよい方法を自分たちで工夫する

音声認識ソフトで悪戦苦闘

音声認識ソフトを使い、教員が話す内容を、学生は机の上の自分のiPhoneやiPadでそれぞれ確認しながら授業がすすむ。



授業外でも音声認識ソフトに話しかけて、話

し方、声質や語彙を学習させるも、

- ① まだまだ音声認識の精度が...
- ② 英語と日本語が一緒だと...
- ③ ネットワークの繋がりにくさ



参考文献

- 木下綾 田頭未希(2012)「大学における難聴学生とろう学生への英語授業支援に関する一考察」『東海大学教育研究所 研究資料集』第20号, 63-78. 東海大学教育研究所
- 田頭未希 木下綾(2013)「英語の授業支援の検討ー聴覚障がいを持つ学生のサポートに関するアンケート調査の報告ー」『東海大学外国語教育センター所報』第33号, 43-49. 東海大学外国語教育センター
- 田頭未希 木下綾(2014)「タブレットを利用した視覚的・双方向的な英語授業ー言語教育におけるユニバーサルデザインの可能性ー」『東海大学紀要』No.22, 95-106. 東海大学教育研究所

問い合わせ先

東海大学 外国語教育センター 田頭未希

Email: t-miki@tokai-u.jp